

- ・多動症
- ・痙攣や尿失禁を伴う例もあります。
- ・てんかん：恐怖や過度の嫉妬心に起因することがあります。発作前には、耳鳴りやめまい、眼のチラつきなどがあります。発作中には、顔色が青くなり、歯をかみしめて眼が突き出たり、失禁することがあります。
- 妄想症（誰かに見られているとか、騙された、毒を盛られたなどの被害妄想癖）
- 咳（夜の痙攣性の咳で横になると悪化する）
- しゃっくり
- 子供の不眠症

■斜視、視覚障害：高熱性疾患がてんかん発作などの後に起こります。

MODALITY

- ▶ 起き上がること（咳のとき）、運動、暖かさ、かがむことなど
- ◀ 食後、横になったとき（咳）、触れられること、月経中、真夜中過ぎ、感情の悪化（恐怖、嫉妬）、寒さなど

RELATIONS

・ Antidotes : Belladonna, Camphora

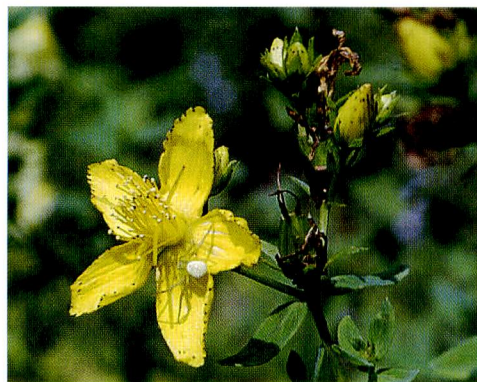
Hypericum perforatum セントジョーンズワート [神経に達する外傷]

Hypericum perforatum L.

Hypericum officinale, Hypericum virginicum, Hypericum vulgare, Fuga daemonum

BACK GROUND

Hypericum perforatumは、ヨーロッパ、アジア、北アフリカが原産で、草原や丘陵地、森などに分布するオトギリソウ科オトギリソウ属の多年草植物です。



(A)

オトギリソウ属の植物約280種のうち、60%以上のものが、その薬効について調査されています。同属の多くの植物が世界各地で、伝統医療の薬草として用いられています。漢方薬にも11種類のオトギリソウ属の植物が含まれています。280種の中でも薬効が証明され、よく用いられているものには、次のような植物があります。Hypericum perforatum, H.andrecyanum, H.calycinum, H.caprifolium, H.drum-

mondii, H.japonicum, H.scabrumなどが代表的です。

Hypericum perforatumは、高さ30~60cmくらいで、レモンの香りのする黄色い小さな花を多数つけます。一般的には、St.John's wort、日本ではセイヨウオトギリソウ、またはセントジョーンズワートと呼ばれています。葉や黄色い花には斑点があり、花弁を指でこすると赤い液体が出てくることから、洗礼者ヨハネが首を切られたとき、その血液からセントジョーンズワートが芽生えてきたという言い伝えがあります。また、聖ヨハネが異教徒として追われているときに、この花のおかげで助かったという言い伝えもあります。このような、キリスト教に関連した言い伝えはたくさん残されています。

この花の開花時期は6月下旬頃であるために、キリスト教文化圏では、聖ヨハネ（John）の6月24日の誕生日に因んで、St.Johnの草、つまりセントジョーンズワートと呼ばれるようになりました。

学名のHypericum perforatumは諸説があり、ギリシア語のhyper上に、eikon絵に由来する説は、この植物を絵の上に飾ると、悪霊を退散させることができることからきていとされています。もう1つの説は、ギリシア語のhyper上に、ereike荒地に由来し、この植物の生育環境からきていとされています。Perforatumは、小さな穴という意味があり、この植物の葉の表面の斑点の形状に由来します。この葉の斑

点は、イエスキリストの聖痕、または殉教者たちの傷を象徴しているとも言われており、また、この植物の聖なる力に怖れをなした悪魔が、葉に穴を開けてしまったためという言い伝えもあります。

セントジョーンズワートは、民間薬としてよく知られている薬用植物で、開花時に少なくとも2週間以上陽光にさらされた地上部の油性エキスは、万能薬として中世から評判が高いものでした。傷の治療、リウマチ、痛風、婦人科疾患、風邪、気管支炎、夜尿症、更年期障害、火傷、消化器疾患、そして、もっとも注目されている抗精神薬などとして幅広く使用されてきました。抗精神薬としては、他の抗神経薬とは違って、副作用が報告されていません。抗精神薬の適用症は多岐にわたります。

主な適応症には、うつ病、無気力、無関心、不安症、情緒不安定状態、睡眠障害、節食障害、慢性疲労症候群、月経前症候群、向精神薬依存症、アルコール依存症などがあります。

抗精神作用の主なものにはセロトニン、ノルエピネフリン、ドーパミンの再吸収阻害作用、モノアミンオキシダーゼ阻害作用、カテコール-O-メチルトランスフェラーゼや副腎皮質刺激ホルモン、放出ホルモン、GABAなどに対する作用などが知られています。

Hypericumには、非常に多くの薬効成分が含まれており、その代表的なものは次のようなものです。

- ・ハイペリシン：精神安定作用などがあります。
- ・メラトニン：ホメオスタシスの維持、活性酸素除去作用、血圧安定作用など多数知られています。年をとるに従って体内から急速に減少していく物質です。
- ・ハイパーフォリン、アドハイパーフォリン：ウイルスが細胞内へ侵入するのを防ぎ、ウイルスが体内で増殖するためのDNA複製過程を阻害する働きがあります。
- ・アメントフラボン： γ -アミノ酪酸（GABA）受容体阻害作用があります。
- ・タンニン：収斂、止血作用などがあります。

その他の有効成分の中には、protohypericin, pseudoprotoperhypericin, pseudohypericin, cyclopseudohypericin, emodinanthrone, 各種フラボノイド（amentoflavone, biapigenin, quercetin, quercitrin, isoquercitrin, hyperoside, rutin）などがあります。

この植物をハーブとして利用する場合には、16世紀の著名な医師パラケルススが提唱したように、開花前期の日の出の時間帯に採取する方法がよいとされてきました。しかし最近の研究では、開花サイクルによ



(A)

って成分の変動があることが、より詳しくわかっていきます。

各種フラボノイドは開花直前に、ヒペリシンは開花時に、そして、ハイパーフォリンは花後の種子形成時に、もっとも濃度が高くなることが知られています。

MATERIAL

この植物全体

FIRST PROVING

G.F.Mullerら（『Hygeia』第5、6巻）

MIND

Hypericumタイプは、非常に勤勉で、活動的、強い意志をもっています。宗教的な面をもっており、その忙しい勤勉さも、神の意思に沿った奉仕の気持ちからであり、お金や物質のために忙しく働くではありません。

このレメディの特異的な感覚として、空中に引き上げられるような感覚がありますが、これも神のもとへ引き上げられるという潜在意識をもっています。より高次元の存在とつながっていると考える傾向があります。その宗教観から、起きているときには性的な考えを抑える傾向がありますので、夜眠っているときに性的な夢を見ることがあります。

このタイプは、調子の良いときには、強い意志をもち、寛容で、選ばれた存在であるという信念をもち、人を助けます。この確固たる意思は、神や高次元とのつながりを土台にして、形成されています。しかしながら、何か悪いことが起こり、自分が神との関係を断ち切られたと思い込むときには、うつ状態になってしまいます。空中に引き上げられている心地よい感覚から、一気に墜落するような状態になります。神からの分離感、疎外感による絶望を感じ、将来の希望が閉ざされてしまったように思います。絶望感のために、痛

みにも耐えることができません。喉が渇き、ワインや牛乳を欲しがります。

AFFINITY

主に神経系に親和性をもっています。とくに脊髄、尾骨、肩甲骨間、髄膜、頭頂部に強い親和性があります。

CLINICAL APPLICATIONS

臨床では、神経に達する外傷（とくに、神経の炎症の初期）に対して非常によく使用されます。

■外傷

- ・外傷：神経に達する外傷，刺し傷，裂傷，打撲（とくに頭部や脊椎，指先，神経組織の豊富な部位の外傷）
- ・動物による咬傷，刺傷（Ledum）：神経組織の多い部位の場合
- ・神経系の外科手術後
- ・脳震とう
- ・脳震とう後の後遺症：頭痛，めまい，不眠症，記憶障害
- ・脳や脊髄外傷後の痙攣
- ・抜歯後の痛み
- ・神経組織の損傷
- ・断脚後の痛み
- ・尾骨の損傷，断尾：歩いたり，かがむと痛みが増します。
- ・外傷後の癰疽の痛み

■その他

- ・破傷風

- ・神経痛，神経炎
- ・うつ病：ショックの後の強いうつ状態
- ・統合失調症
- ・喘息：霧の日に悪化します。多量の痰の排出で楽になります。とくに脊髄の損傷歴のある場合。
- ・痔：痛みと出血を伴います。
- ・長い間座り続けた後の左側坐骨神経の痛み
- ・器具による分娩後

MODALITY

- ▶ じっと安静にしていること，擦ること，頭を後ろへ反ること，顔を伏せて寝ることなど
- ◀ 外傷，ショック，冷氣，湿った気候，気候の変動，霧，嵐の前，締め切った部屋，触られること，急激にガタガタ揺れること，運動，午後6時～10時，暗闇など

Hypericum は緊急時には頻回に投与します。

RELATIONS

- ・ Antidotes : Arsenicum album, Chamomilla, Ledum

（参考）

セント・ジョーンズ・ワートをハーブとして摂取することにより，薬物代謝酵素が誘導され，インジナビル（抗HIV薬），ジゴキシシン（強心薬），シクロスポリン（免疫抑制薬），テオフィリン（気管支拡張薬），ワルファリン（血液凝固防止薬），経口避妊薬の効果が減少することが報告されています。